

日時：平成16年1月24日（土） 14：00～17：30

場所：海洋科学技術センター 東京連絡所 セミナー室

出席者：執行部 徳山・荒井・伊藤・井龍・加藤・木村・佐柳・徐・巽
部会長補佐 斎藤 事務局 山川・西川

（15：20～16：20 陸上掘削部会暫定幹事会と合同開催

出席者：暫定幹事 浦辺・宇都・小村・徐

MEXT 海洋地球課 木村係長 暫定事務局 木川・笹山）

【陸上掘削部会との共通検討事項】

- ・ 陸上掘削部会の体制（案）および ICDP 国内実施体制（案）について陸上掘削部会から説明があった。
- ・ 陸上掘削部会規則（案）が示され、陸上掘削部会から説明があった。賛助会員の扱い（会費額など）、部会事務局の設置について、引き続き検討を進める。
- ・ 予算について、基本的な考え方が合意された。会員提案型活動経費および両部会で共通する経費（予算）を確保した後、残額を各部会の予算として配分する。配分の割合等については、今後調整する。なお、両部会への予算配分後も、部会予算間での融通など、弾力的な予算の運用に努める。
- ・ 陸上掘削の国際戦略について、今後国内科学計画として取りまとめて行くことを検討する。科学計画として刊行する場合には、陸上掘削部会としてではなく、コンソーシアムとして刊行することを確認。なお、ICDP SAG では ICDP におけるこれまでの10年間の科学成果の取りまとめ中との情報。
- ・ 本日の協議を踏まえ、今後も必要に応じて合同協議会を実施する（年度中に1回実施）。また、両部会の幹事会・執行部会にはそれぞれの部会からリエゾンを派遣することが確認された。

【執行部員の所掌事項について】

- ・ 佐柳執行部員の所掌事項を確認。対大学対応・学会（地震学会等）対応、科学計測・汚染防止安全・技術開発推進専門部会対応（伊藤執行部員の補佐）を行う。

【乗船研究者の選出について】

- ・ 1月23日現在の応募状況を事務局より説明。
- ・ Juan de Fuca 航海については、荒井執行部員と荒井地球内部専門部会長と協議し調整。
- ・ Lomonosov 航海については、井龍執行部員が、代表格の研究者および関係専門部会長と協議し、調整。
- ・ 上記2航海については、今月中に候補者名簿の決定ができるよう作業を進める。
- ・ その他の航海については、乗船研究者選定の基準を作成し、公平な選定ができるようにする。また、その際、海外（アジア）からの乗船研究者応募についても配慮する（原則

として日本人応募者と同等な、公平な審査を行う) ことを検討(関係各方面と調整)。

【通称「IODP の国内科学計画第2版」の作成について】

- ・ 1月15日までに寄せられた修正意見をもとに、修正作業を行い、2月中の刊行を目指す(深海掘削委員会での配布を希望)。その後、英語版は3月中を目途に作成する。
- ・ 本書の位置づけを明確にするよう、序文を修正する。
- ・ 本書のタイトルを「IODP における我が国の科学戦略～IODP における我が国の科学計画の実現に向けて～(仮称)」とし、一昨年刊行された「IODP における我が国の科学計画」を受けた出版物であることを明確にする。
- ・ AESTO 設置の IODP 国内科学計画委員会との共著とする。

【予算要求への対応について】

- ・ 異執行部員より、深海掘削委員会に提出予定の、IODP 科学支援体制に関する提言(案)について説明があった。
- ・ 提言(案)はWEBに公開し、広く会員の意見を求めることにする。

【コンソーシアム広報について】

- ・ 積極的な IODP 普及広報活動を進めるため、会員機関宛に、IODP 部会長名でのお願い状を送付する。
- ・ 大学キャンペーンについては、九州大学・宇都宮大学で実施の方向。あと数機関(大学)候補をあげて調整を行う。大学キャンペーンについては、コンソーシアムにおける IODP 広報活動の現状として、深海掘削委員会でも報告する。
- ・ IODP Education and Outreach Workshop(2月20～23日@米国)に異執行部員・斎藤部会長補佐が出席し、J-DESC における広報対応の現状について説明する。
- ・ 地球惑星科学合同大会(5月)には、JAMSTEC/CDEX と合同でブース展示を出展する。今後関係者で調整を行う。なお、今後も JAMSTEC/CDEX とは、広報関連で連携した取り組みを進める(大学キャンペーンと博物館イベントの同時開催など)。
- ・ 地球惑星科学合同大会(5月)「地学教育」セッションで、J-DESC/IODP 広報に関する講演を行う方向で、調整を行う。
- ・ 関連国際学会については、必要性を検討の上、出展をする。その際には、JAMSTEC/CDEX と連携して対応にあたる(2003年 AGU と同様の対応)。なお、アジアにおける IODP 普及の観点から、Asian Oceania Geoscience Society(7月)、Western Pacific Geophysics Meeting(8月)いずれかへの出展を検討する。また、ICP8、AGU などについても検討。
- ・ 井龍執行部員より、高校生向けパンフレットのデザイン案が示された。2月中の完成を目途に作業を進め、PDF ファイルをホームページ上に公開、自由利用してもらう。
- ・ 大学講義向けのビデオ・DVD、IODP 乗船研究者の手引きなど、教育用の素材を充実させてゆく必要がある。

【アジア対応について】

- ・ 徐執行部員より、J-DESC のアジア対応について、Asian Marine Geology 会議報告とあわせて報告があった。

- ・ 年度末の国際シンポジウムを3月30日に開催することが確認された。今後、プログラム、海外からの出席者等について、徐執行部員を中心に調整を行う。
- ・ アジアの研究者に対して日本のIODP乗船枠を用いて乗船機会を提供する案について、徐執行部員から現状の説明があり、今後各方面と調整を進めていくこととなった。

【専門部会・国際パネルへの対応について】

- ・ 斎藤部会長補佐より、1月9日に実施された孔内計測WGの報告があった。
- ・ 事務局より、2月6日に科学計測専門部会、2月9日に技術開発推進専門部会を開催することが報告された。
- ・ ILP委員選任について、J-DESCとしてのILPの位置づけ、産業界との関連のあり方に対する考え方を明確にし、ILP委員候補に説明する。また、並行して2月のILPへの対応を検討する。
- ・ ILPの位置づけ、任務については、SPC日本人委員内で意見の統一を図り、今後SPCで議論してもらう必要がある。
- ・ 産業界との連絡のため、J-DESCと産業界関係者との連絡懇談会を設ける。
- ・ TAPについても、人選を進める。
- ・ SPC/PANCH（3月22～26日）にJ-DESCリエゾンとして、斎藤部会長補佐が出席する。
- ・ データベースWG、計測スタンダードWGを科学計測専門部会のもとに設置するため、必要手続きを進める。
- ・ 新年度の専門部会委員の交替について検討する。（地球内部・地球環境・地下圏微生物専門部会の委員交代はなし。）

【今後の予定について】

- ・ 2月14日（土） 定例執行部会
- ・ 3月第1週 地球内部・地球環境・地下圏微生物専門部会合同会議
- ・ 3月10・11・12日のいずれか SPC/PANCH事前打合せ（日程調整する）
同日午前中に3月定例執行部会を開催
- ・ 4月4日（日）13時～16時 J-DESC総会（@海洋研）
- ・ 平成16年度予算案の作成を進める（事務局）

【その他】

- ・ IODP出版物に対するJ-DESCの見解（SPCより求められていた回答）を、加藤執行部員が作成。修正コメントを受け付けた後に今月中に回答を返信する。
- ・ 2月16～20日の予定でIMI-VPが来日。必要あれば徳山部会長が対応する。
- ・ 会員提案型活動経費利用についてのアンケートを実施する。
- ・ パンフレット図表の使用許可については、非営利目的の利用であることを条件に、事務局判断で許可を出してよい。
- ・ 会費未納機関について、督促を進める。

以上